



猪苗代湖(湖心)における水質の推移

猪苗代湖のCOD（75%値）及びpHは、グラフのとおりです。

猪苗代湖は、かつて湖水のpHが5.0程度の酸性湖沼でしたが、平成8年（1996年）頃から湖水のpHが上昇し始め、平成21年（2009年）以降はpH6.8前後で安定し、ほぼ中性の湖となりました。

また、COD（75%値）については、環境基準値（3mg/L）には適合しているものの、湖水の中性化に伴い数値が上昇し、令和6年度は1.6mg/Lで前年度より上昇しました。

COD75%値(mg/L)

pH(年平均(全層))

■ 類型：A、Ⅱ

■ 基準値

pH：適用外

COD：3mg/L以下

SS：5mg/L以下

DO：7.5mg/L以上

大腸菌数

：300CFU/100mL以下

T-N：0.2mg/L

T-P：0.01mg/L

※水質ランキング（環境省）

平成14～17年 1位

平成18～19年 ランク外

平成20年 2位

平成21～28年 ランク外

平成29年度 8位

平成30年度 14位

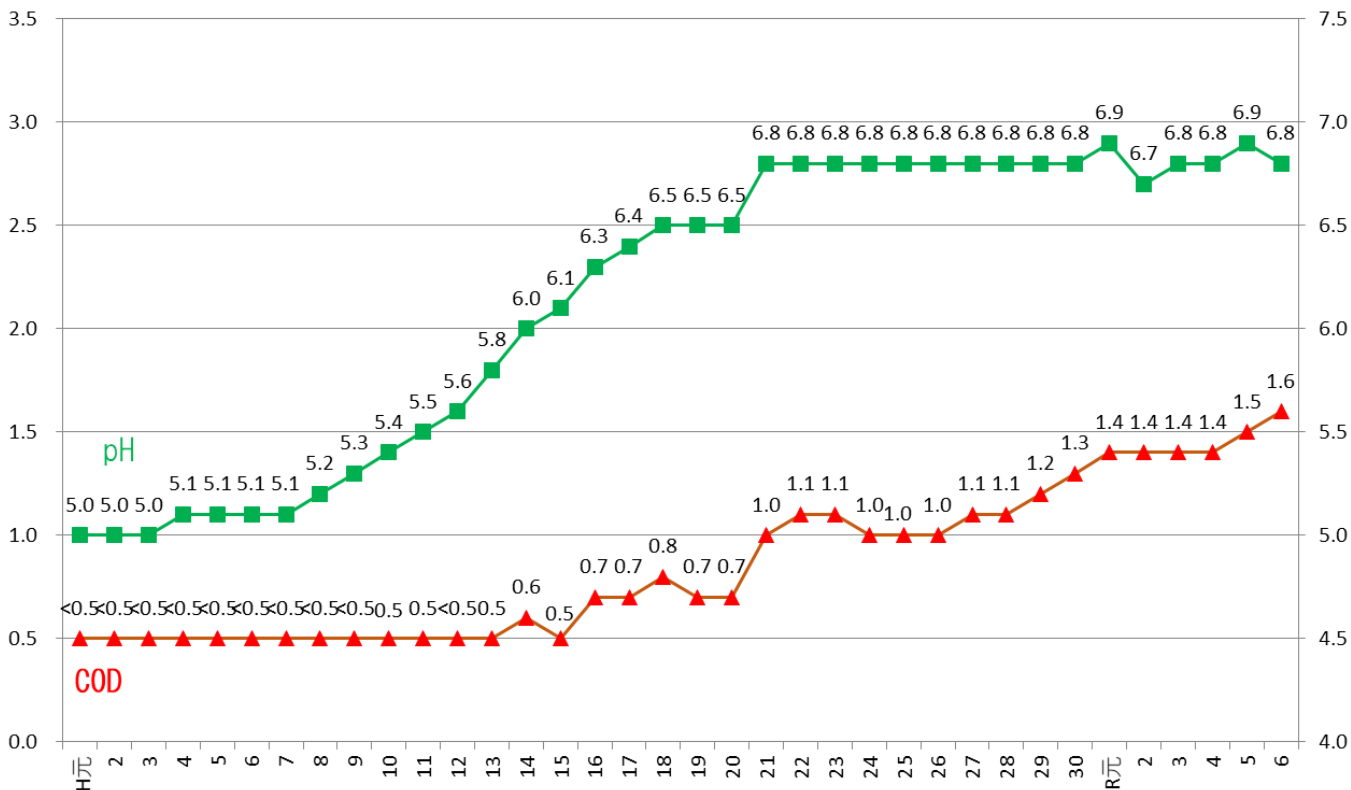
令和元年度 15位

令和2年度 14位

令和3年度 17位

令和4年度 15位

令和5年度 22位



pH：平成7年度までは5.1以下の酸性。平成8年度以降、その値が上昇し中性化。pH上昇の要因として、源流域からの硫酸イオンの供給や源泉水の性状変化などが考えられる。

COD：COD増加の要因は、湖水の中性化に伴う自然の浄化機能の低下や湖内のプランクトン等の繁殖の増大等が考えられる。